NEC Express5800シリーズ
Express5800/iR110a-1H

2 セットアップ

本装置をお使いになれるまでの手順について説明します。

設　置（22ページ）
本装置の設置にふさわしい場所やラックへの搭載手順について説明します。

接　続（39ページ）
前面のコネクタへの接続について説明します。

電源のON（41ページ）
システムの電源を正しくONにできることを確認します。

Linuxのセットアップ（42ページ）
Linuxで運用する場合のシステムのセットアップの方法について説明しています。

本書の中で光ディスクドライブやフロッピーディスクを使用した説明が記載されていますが、本製品は標準構成で光ディスクドライブやフロッピーディスクドライブを内蔵していません。
オプションの USB フロッピーディスクドライブを使用してください。

設 置

本体の設置と接続について説明します。

ラックの設置

本装置はEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。
ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

⚠ 警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **指定以外の場所で使用しない**
- **アース線をガス管につなかない**

⚠ 注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **1人で搬送・設置をしない**
- **荷重が集中してしまうような設置はしない**
- **1人で部品の取り付けをしない**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**
- **定格電源を越える配線をしない**
- **腐食性ガスの発生する環境で使用または保管しない**

次の条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所（暖房機、エアコン、冷蔵庫などの近く）。
- 強い振動の発生する場所。

- 腐食性ガス（塩化ナトリウムや二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の発生する場所やほこり中に腐食を促進する成分（硫黄など）や導電性の金属などが含まれている場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所（万一、ご使用の環境でこのような疑いがある場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社へご相談ください）。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの（テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど）の近く（やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください）。
- 本装置の電源コードを他の接地線（特に大電力を消費する装置など）と共有しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ（商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど）を発生する装置の近く（電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください）。

ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、本装置の動作保証温度（10℃～35℃）を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。
本装置では、前面から吸気し、背面へ排気します。

ラックへの取り付け/ラックからの取り外し

本装置をラックに取り付けます（取り外し手順についても説明しています）。
複数台のサーバをラックに載せる場合の条件や搭載時の注意事項に関しては、NECのWebサイト「http://www.nec.co.jp/products/pcserver/」を参照してください。

警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **規格外のラックで使用しない**
- **指定以外の場所で使用しない**

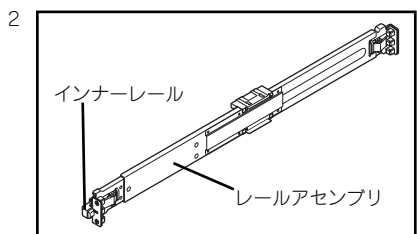
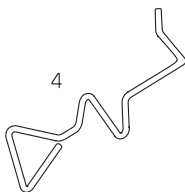
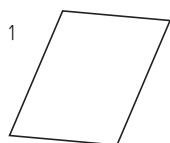
注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **1人で搬送・設置をしない**
- **カバーを外したまま取り付けしない**
- **指を挟まない**
- **ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない**

取り付け部品の確認

ラックへの取り付けにはN8143-74 ワンタッチレールが必要です。
N8143-74ワンタッチレールの構成品を確認してください。

項番	品名	指定	数量
1	ワンタッチレール取扱説明書	856-128103-001	1
2	ワンタッチレール	ー	2
3	ネジ	ー	8
4	取り外し金具	ー	1

取り付け手順

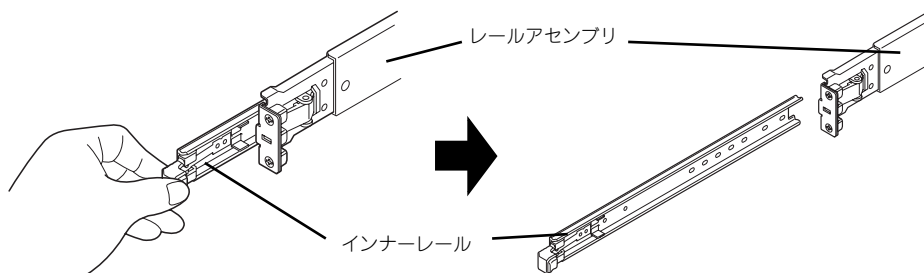
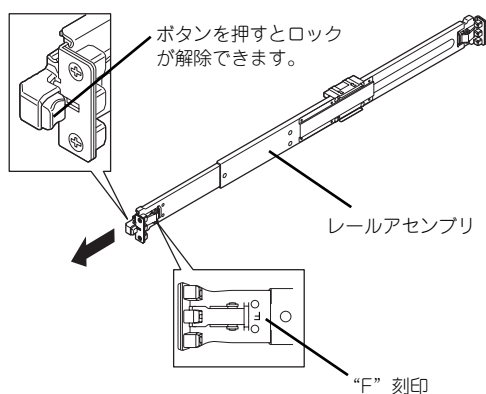
本装置は弊社製および他社ラックに取り付けることができます。次の手順でラックへ取り付けます。

インナーレールの取り付け（前面実装）

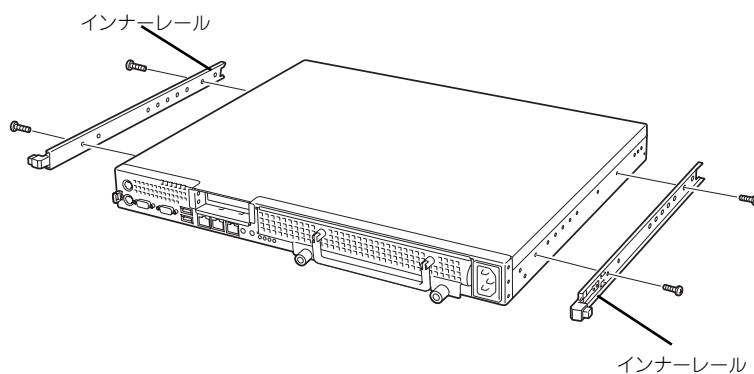
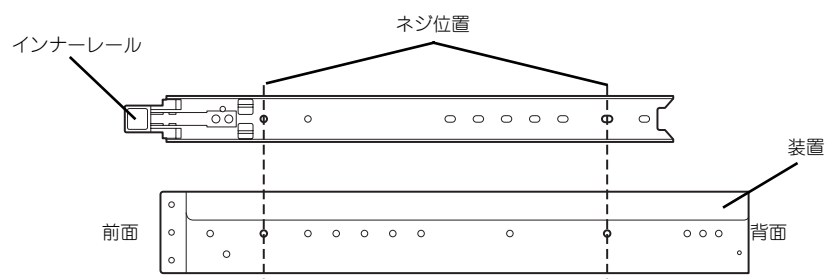
前面実装ではラックの前面、または背面のいずれかに設置することができます。

両面実装をする場合はインナーレールの取り付け（両面実装）（28ページ）を参照してください。

- **インナーレールの取り外し**

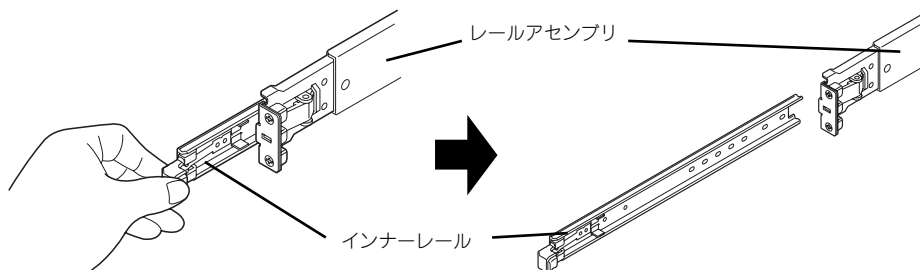
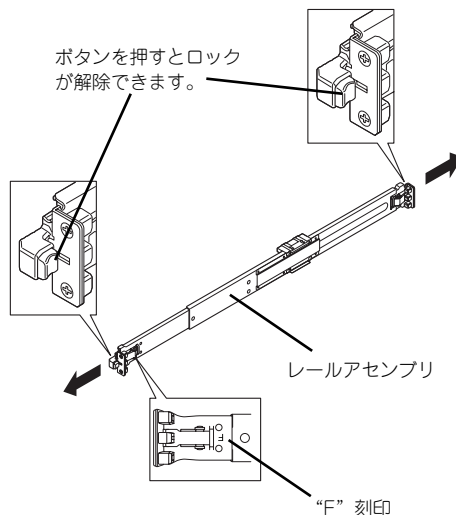
レールアセンブリの「F」の刻印のある側から、インナーレールをロック解除ボタンを押しながら、ゆっくりと取り外します（図は右側を示していますが、左側も同様に取り外してください）。

- **レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。**
- **レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。**

- **インナーレールの取り付け**

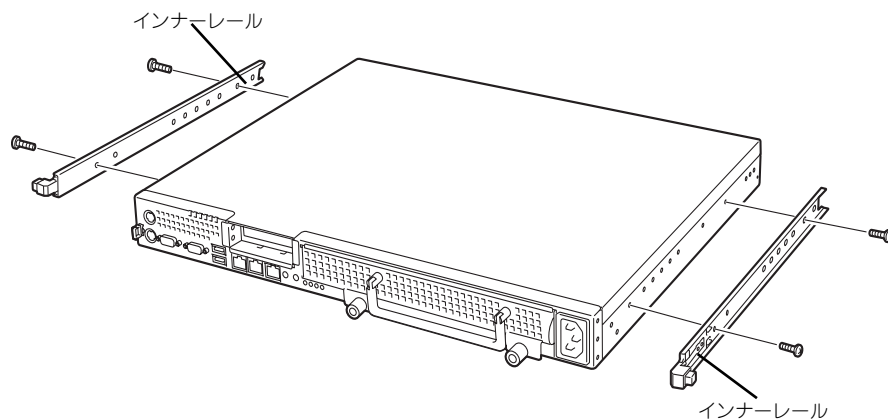
装置の側面にインナーレールをネジ4本（左右各2本ずつ）で取り付けます。

インナーレールを装置の以下の位置に取り付けてください。下図は右側のイラストですが、反対側も同じ位置に取り付けてください。

インナーレールの取り付け（両面実装）

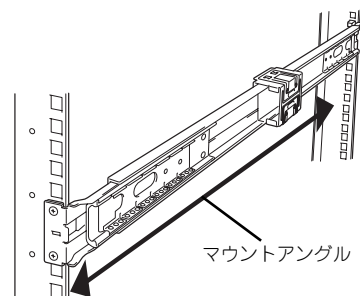
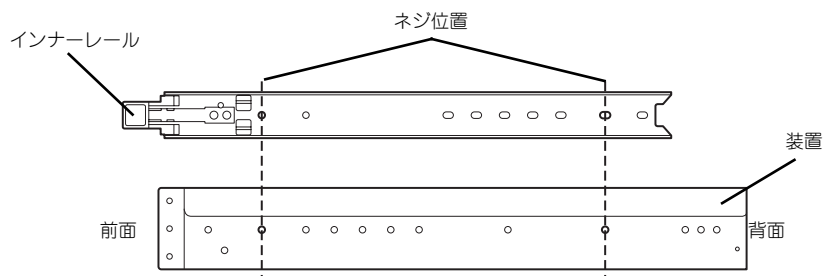
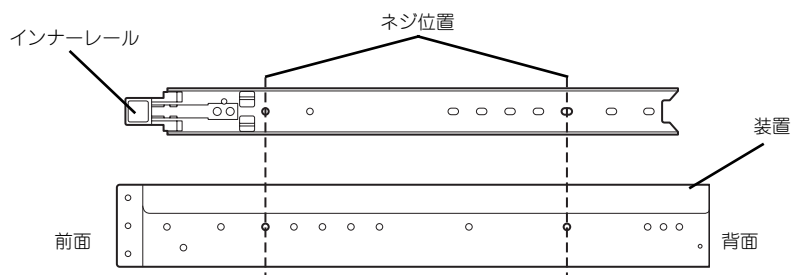
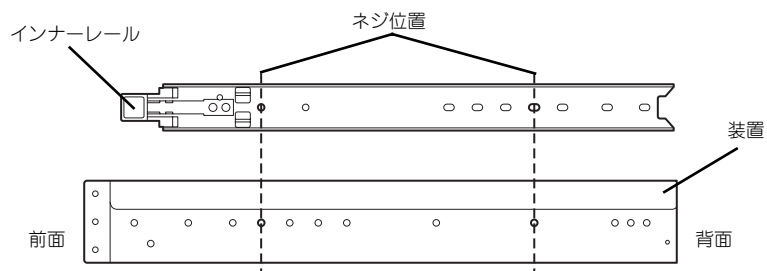
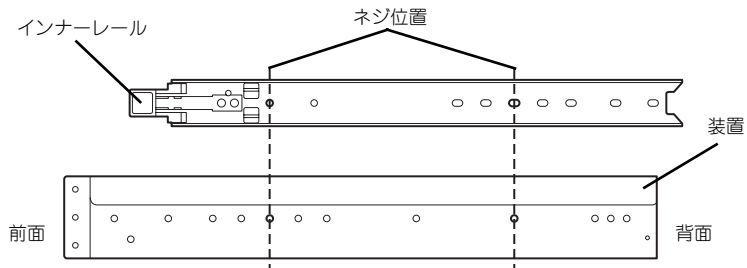
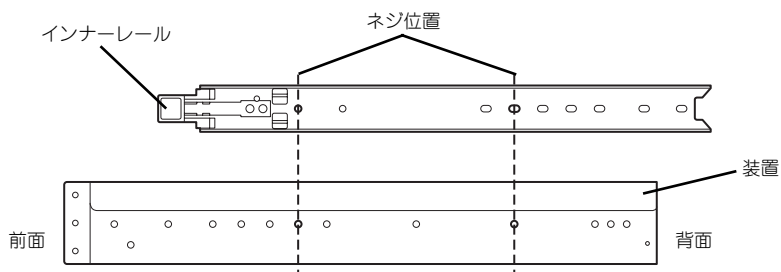
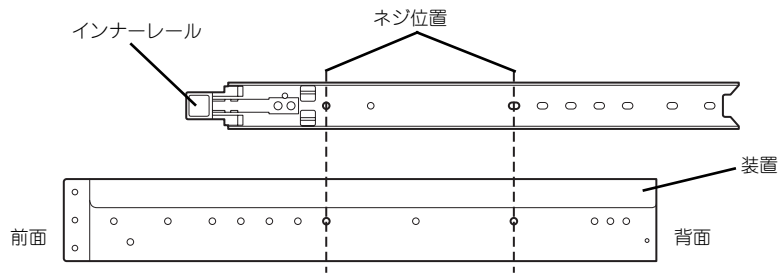
前面実装をする場合はインナーレールの取り付け（前面実装）（26ページ）を参照してください。

- **インナーレールの取り外し**

レールアセンブリの「F」の刻印のある側から、インナーレールをロック解除ボタンを押しながらゆっくりと取り外します。
反対側のインナーレールも同様に取り外します（図は右側を示していますが、左側も同様に取り外してください）。

- **レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。**
- **レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。**

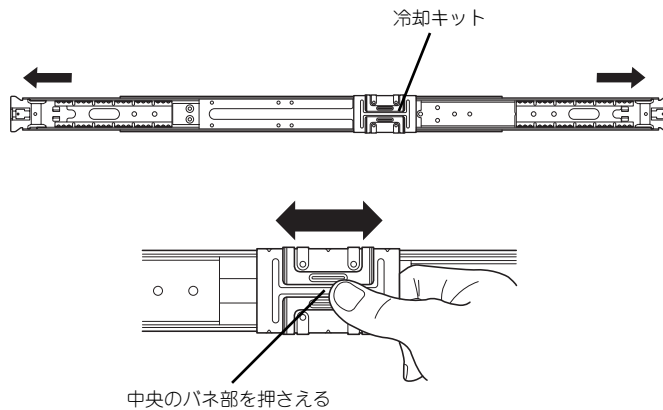
- **インナーレールの取り付け**

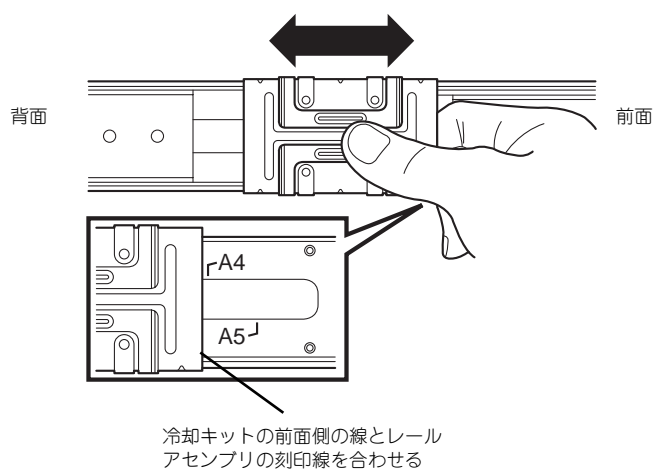
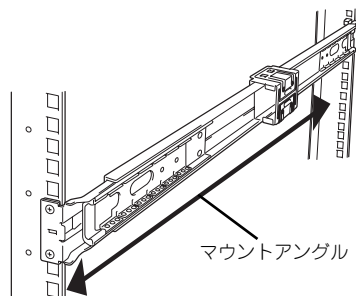
装置の側面にインナーレールをネジ4本（左右各2本ずつ）で取り付けます。

取り付ける ラックのサイズにより、インナーレールの取り付け 位置を調整してください（下記の表は推奨位置です。お客様の設置条件により取り付け位置を調整してください）。

項番	ラックのマウントアングル間隔
0	790mm
A1	740mm ～ 789mm
A2	706mm ～ 739mm
A3	672mm ～ 705mm
A4	638mm ～ 671mm
A5	620mm ～ 637mm

－　マウントアングル間隔［0」（790mm）の場合

– マウントアングル間隔［A1］（740mm〜789mm）の場合

– マウントアングル間隔［A2］（706mm〜739mm）の場合

– マウントアングル間隔［A3］（672mm〜705mm）の場合

– マウントアングル間隔［A4］（638mm〜671mm）の場合

– マウントアングル間隔［A5］（620mm～637mm）の場合

冷却キットの位置決め

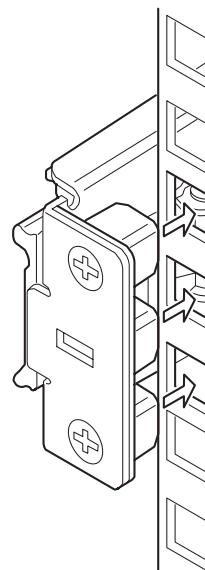
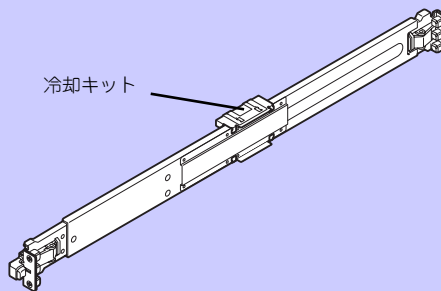
冷却キットの位置を調整します。

- **両面実装の際は必ず冷却キットの位置を調整してください。冷却キットを正しい位置にセットしていないと、故障や人体事故、火災、周囲の機器の損傷を引き起こす原因となることがあります。**
- **冷却キットは取り外しできません。以降の説明を参考に調整してください。**
- **冷却キットの位置決め後は、ロックが確実にかかっていることを確認してください。**

アウターレールを完全に延ばし、中央のバネを押さえながら冷却キットをスライドさせてください。

使用するラックサイズに合わせて位置を調整してください。
冷却キットの調整位置はレールアセンブリの裏側に刻印されています。

項番	ラックのマウントアングル間隔
B1	片面実装時の冷却キット調整位置
0	790mm
A1	740mm ～789mm
A2	706mm ～739mm
A3	672mm ～705mm
A4	638mm ～671mm
A5	620mm ～637mm

レールアセンブリの取り付け

レールアセンブリの四角い突起を、「F」の刻印のある側を前面にしてラックの角穴に入れて取り付けます。この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。

右図は右側（前面）を示していますが、右側（背面）、左側（前面/背面）も同様に取り付けてください。
もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

- 前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。
- 両面実装の場合は冷却キットをレールアセンブリの正しい位置に調整した後、レールアセンブリの取り付けを行ってください。

レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

本装置の取り付け

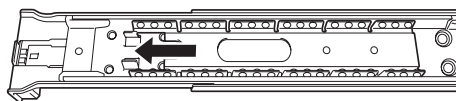
次の手順で本装置をラックに取り付けます。

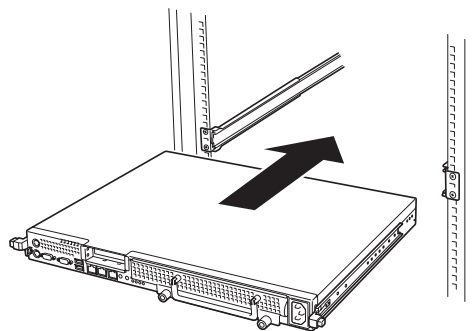
ここではラック前面側に取り付ける場合について説明しますが、ラック背面側に取り付ける場合も取り付け方法は同じです。

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **1人で搬送・設置をしない**
- **指を挟まない**

1. レールアセンブリのベアリング部材が手前（「F」の刻印のある側）の位置で固定されていることを確認してください。

2. 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

ラック前面側

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり装置を固定できます。この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください

- **レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。**
- **差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。**
- **設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。**

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

取り外し手順

次の手順で本装置をラックから取り外します。
ここではラック前面側に取り付けられている本装置を取り外す場合について説明しますが、ラック背面側に取り付けられている場合も取り外し方法は同じです。

⚠ 警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

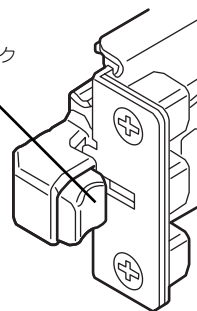
- 動作中に装置をラックから引き出さない

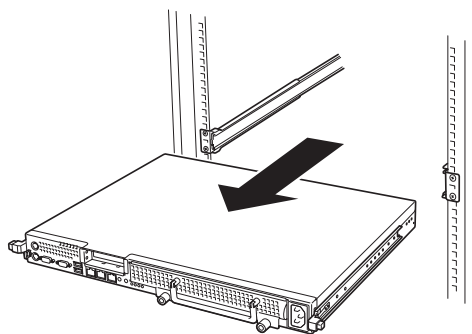
⚠ 注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

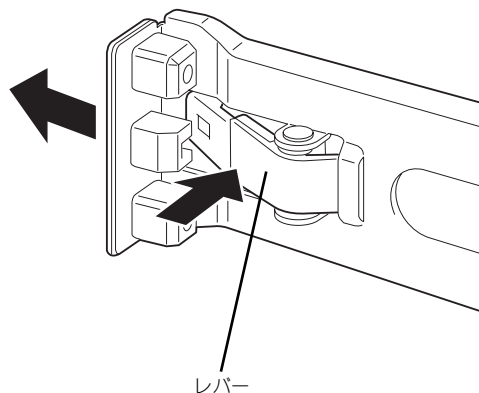
- 1人で搬送・設置をしない
- 指を挟まない
- ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない

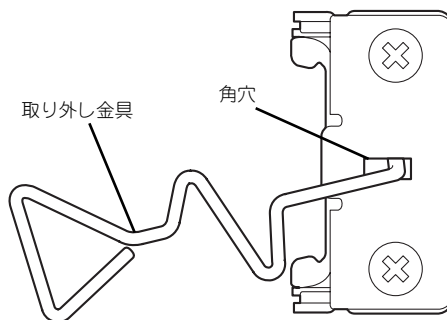
本装置の取り外し

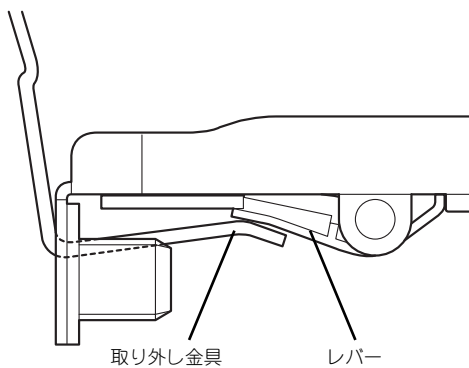
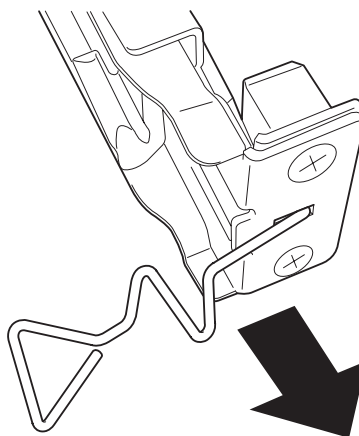
1. 本装置の電源がOFFになっていることを確認してから、本装置に接続している電源コードやインタフェースケーブルをすべて取り外す。
2. 本装置前面の左右にあるロック解除ボタンを押しながら本装置をゆっくりと静かにラックから引き出す。

3.　本装置をゆっくりと静かにラックから引き出し、しっかりと持ってラックから取り外す。

重要

- 装置を引き出した状態で、引き出した装置の上部から荷重をかけないでください。装置が落下するおそれがあり、危険です。
- 複数名で装置の底面を支えながらゆっくりと引き出してください。
- レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。
- 取り外しの際は、左右のつまみを確認しながら、ゆっくりと取り外してください。

レールアセンブリの取り外し

レールアセンブリを取り外す場合はレバーを押しながらレールを矢印方向に引いて外してください。

- **取り外し金具を使用した取り外し**

1. 角穴に取り外し金具を差し込む。

2. 取り外し金具の先端部分がレバーに当たっていることを確認し、外側へ力を加える。

   てこの原理で力を加えます。

3. ロックが解除された状態でラックからレールアセンブリを取り外す。

接　続

接続は周辺機器、電源コードの順番です。

周辺機器との接続

本体に周辺装置を接続します。
本体の前面には、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次ページの図は標準の状態で接続できる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。

無停電電源装置や自動電源制御装置への接続やタイムスケジュール運転の設定、サーバスイッチユニットへの接続・設定などシステム構成に関する要求がございましたら、保守サービス会社の保守員（またはシステムエンジニア）にお知らせください。

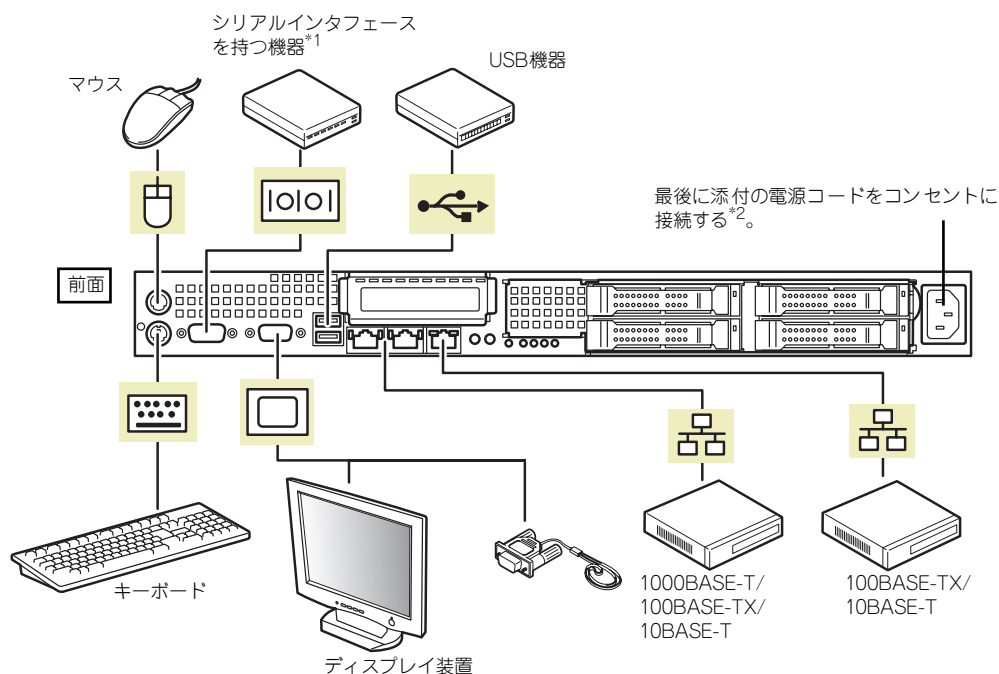
警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **ぬれた手で電源プラグを持たない**
- **アース線をガス管につながない**

注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **指定以外のコンセントに差し込まない**
- **たこ足配線にしない**
- **中途半端に差し込まない**
- **指定以外の電源コードを使わない**
- **プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない**
- **指定以外のインタフェースケーブルを使用しない**

*1 専用回線へ直接接続することはできません。
*2 電源コードは、15A以下のサーキットブレーカに接続してください。

重要

- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- サードパーティの周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- シリアルポートには、「COM2」が割り当てられております。
OSがLinuxの場合は、"ttyS1"（Serial Port B）を指定してください。
- 本装置では、シリアルポートを経由した電源制御を行うことができません。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- 回線に接続する場合は、認定機関に申請済みのボードを使用してください。
- 電源コードやインタフェースケーブルをケーブルタイでケーブルがからまないよう固定してください。
- ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
- LANケーブルを外す際は、コネクタが引っかかることがあるため水平に引き出すようにしてください。

電源のON

システムの電源がONになることを確認します。

POWERスイッチを押す

周辺機器の電源をONにした後、本体前面にあるPOWERスイッチを押します。スイッチを押すと前面のPOWERランプが点灯し、POST（Power-On Self-Test）を開始します。ディスプレイにはPOST中の処理の内容が表示されます。

POWERスイッチを押す際は、ペンの先のような硬く尖ったもので強く押さないでください。POWERスイッチを強く押しすぎるとスイッチ部分が奥に引っかかり、押されたままの状態になることがあります。もしこのような状態になってしまった場合は、ペン先等でスイッチを元の位置に戻してください。

POSTのチェック

POST（Power On Self-Test）は本装置の自己診断機能です。
POSTは本装置の電源をONにすると自動的に実行され、マザーボード、DIMM、プロセッサ、キーボード、マウスなどをチェックします。また、POSTの実行中に各種のBIOSセットアップユーティリティの起動メッセージなども表示します。

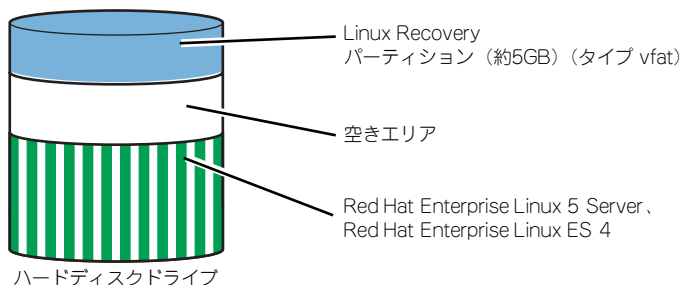
POSTに関する説明については1章のPOSTのチェック（17ページ）を参照してください。

Linuxのセットアップ

ハードウェアのセットアップ完了後、Linux(「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」または「Red Hat Enterprise Linux ES 4」)のインストールを行います。

セットアップを始める前に – 購入時の状態について –

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本装置のハードウェア構成(ハードディスクのパーティションサイズも含む)やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入時のお客様によるオーダーによって異なります。下図は、BTO(工場組み込み出荷)を指定して購入された場合の、標準的な本装置のハードディスク構成について図解しています。

Linux Recoveryパーティションについて

Linux Recoveryパーティションには、インストールディスクのISOフォーマットイメージファイル等、Linuxのシームレスセットアップで必要となるモジュールが格納されます。

BTO(工場組み込み出荷)時の初期設定

BTO(工場組み込み出荷)を指定して購入された本装置のハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、各種アプリケーションなどがすべてインストールされています。
Linuxサービスセットに添付される「初期設定および関連情報について」を参照し、Linuxの初期導入設定を行ってください。

再セットアップ(Linuxサービスセットを購入された場合)

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDが提供する自動セットアップユーティリティ「シームレスセットアップ」を使用してください。「シームレスセットアップ」では、RAIDシステムの構築やOS、各種アプリケーションのインストールに必要な情報を選択・入力すると、後は簡易的な操作でBTO(工場組み込み出荷)時の状態に復元することができます。

未インストールからのセットアップ・再セットアップ

Linuxサービスセットを購入された場合は、Linuxが未インストールの状態から「シームレスセットアップ」を使用することができます。パッケージの変更などを行うためにBTO（工場組み込み出荷）時と異なる設定で再セットアップを行う場合は、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントの「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を行ってください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」ユーティリティを使ってインストールします。「シームレスセットアップ」とは、Linuxサービスセットを購入されたお客様向けに提供するLinux簡易インストーラのことです。「EXPRESSBUILDER」DVDを使用し、RAIDシステムの構築やOS、各種アプリケーションのインストールに必要な情報を選択・入力すると、後は簡易的な操作でインストールできます。「シームレスセットアップ」では工場組み込み出荷状態に復元されますが、パーティションやrootパスワードの設定の変更、およびインストールするアプリケーションを選択することができます。パッケージについてはインストール後、rpmコマンド、またはパッケージマネージャで追加および削除が可能です。パーティション構成の変更などを行うためにOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なインストールをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップを実施する前に、必ず必要なデータのバックアップをとってください。

- シームレスセットアップでは、各OS用にドライバディスクを作成する必要があります。別途ドライバディスク用に空きフロッピーディスクを1枚ご用意ください。
- シームレスセットアップでは、保存したパラメータファイルを使用したり、セットアップに必要なパラメータをパラメータファイルとしてフロッピーディスクに保存することができます。別途パラメータファイル用に1.44MBフォーマット済み空きフロッピーディスクを1枚ご用意ください。
- 別途USBフロッピーディスクドライブをご用意ください。

セットアップ前の確認事項について

シームレスセットアップを始める前に、ここで説明する注意事項について確認しておいてください。

ディストリビューションについて

シームレスセットアップでは、以下のディストリビューションに対応しています。
購入されているLinuxサービスセットのディストリビューションを選択できます。

- Red Hat Enterprise Linux 5 Server (x86)
- Red Hat Enterprise Linux 5 Server (EM64T)
- Red Hat Enterprise Linux ES 4 (x86)
- Red Hat Enterprise Linux ES 4 (EM64T)

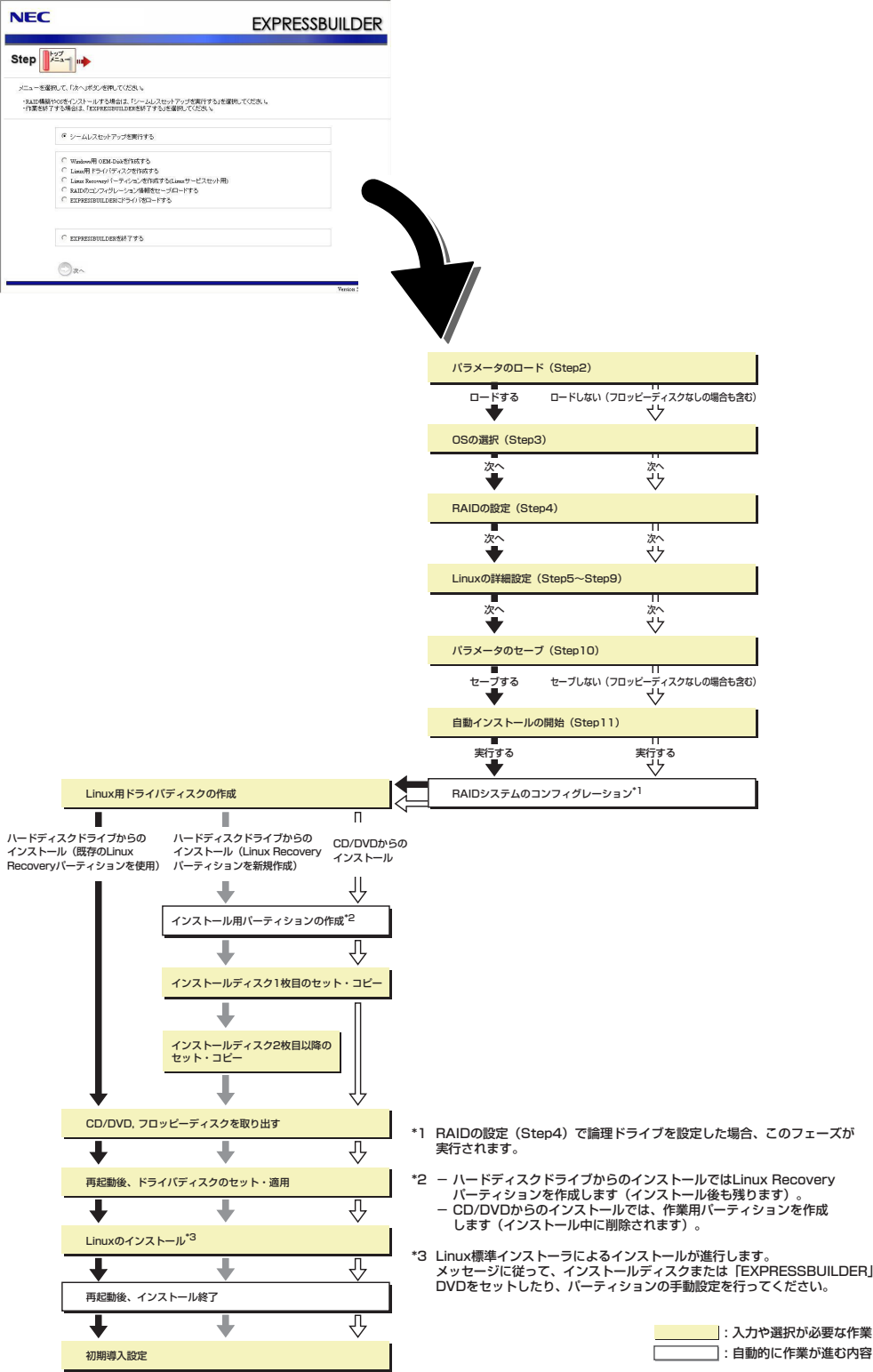
BIOSの設定について

Linuxをインストールする前にハードウェアのBIOS設定を確認してください。
60ページの「システムBIOS(SETUP)のセットアップ」を参照して必要な設定を行ってください。

注意すべきハードウェア構成について

- Linuxシステムをインストールしようとするハードディスクドライブのほかに別のハードディスクドライブを接続する場合は、Linuxをインストールした後に接続してください。
- オプションのRAIDコントローラに論理ドライブが作成されたハードディスクドライブが接続されている場合、論理ドライブが作成されたハードディスクドライブを取り外してインストールを実施してください。
- 本装置の購入後にオプションの追加接続を行っている場合は、BTO(工場組み込み出荷)時の状態に戻してインストールを実施してください。
- Linux OSが起動するハードディスクドライブおよび論理ドライブ（“/” および “/boot” を配置するドライブ）に、2,097,152MB（2TB）以上の容量のハードディスクドライブを使用することはできません。

セットアップの流れ

シームレスセットアップの流れを図に示します。

セットアップの手順

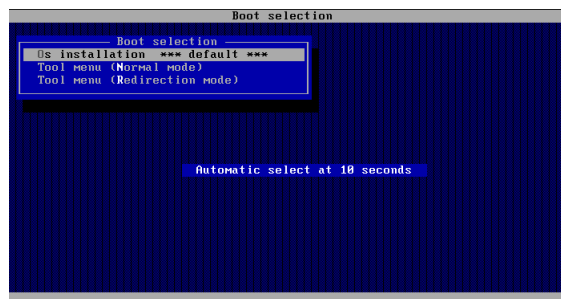
Linuxのインストールを行うには以下のインストール対象のOSのインストールディスクが必要です。「ハードディスクからのインストール」を選択し、既存のLinux Recoveryパーティションを使用してインストールする場合は、インストールディスクは不要です。

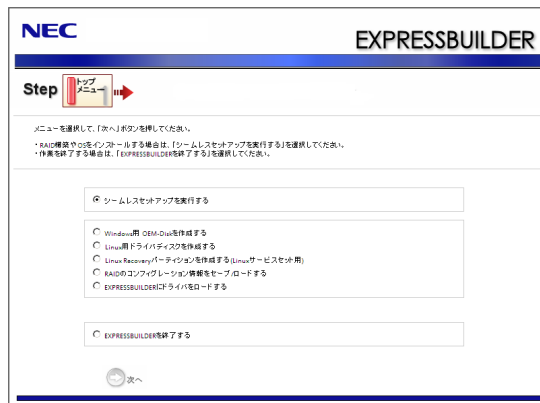
- Red Hat Enterprise Linux 5.2 Server (x86) Install Disc 1～5
  または、Red Hat Enterprise Linux 5.2 Server (x86) Install DVD
- Red Hat Enterprise Linux 5.2 Server (EM64T) Install Disc 1～6
  または、Red Hat Enterprise Linux 5.2 Server (EM64T) Install DVD
- Red Hat Enterprise Linux ES 4.7 (x86) Install Disc 1～5
  または、Red Hat Enterprise Linux ES 4.7 (x86) Install DVD
- Red Hat Enterprise Linux ES 4.7 (EM64T) Install Disc 1～5
  または、Red Hat Enterprise Linux ES 4.7 (EM64T) Install DVD

- 必要に応じインストールディスクを作成してください。インストールディスクの作成方法は、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントの「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。
- 「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」、「Red Hat Enterprise Linux ES 4」用の「Linuxメディアキット」を購入されたお客様は、インストールディスクを作成する必要はありません。

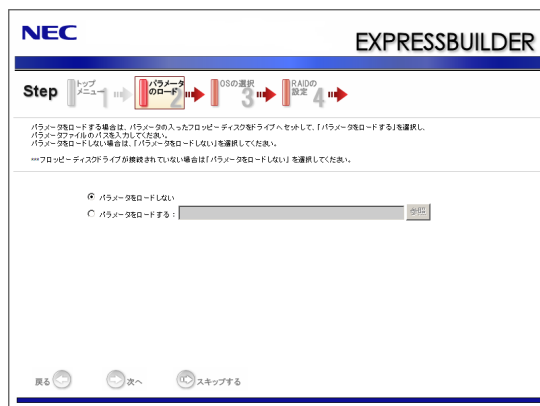
以下に、シームレスセットアップの手順を説明します。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにしてください。
2. 本装置に接続した光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」DVDをセットしてください。
3. DVDをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動してください。

   DVDからEXPRESSBUILDERが起動します。
   下のメニューが表示されたら、「Os installation　*** default ***」を選択してください。ここで選択しない場合は、自動でシームレスセットアップの流れに進みます。

4. トップメニューが表示されます。

「シームレスセットアップを実行する」を選択し、[次へ]をクリックしてください。

5. [パラメータのロード]画面が表示されます。

パラメータをロードする場合は「パラメータをロードする」を選択し、パラメータの入ったフロッピーディスクをセットしてパラメータファイルのパスを入力してください。パラメータのロード後、[次へ]をクリックしてください。

パラメータをロードしない場合やフロッピーディスクドライブが接続されていない場合は、「パラメータをロードしない」を選択して、[次へ]をクリックしてください。

Linuxサービスセット用のパラメータは、「スキップする」機能には対応していません。

6. [OSの選択]画面が表示されます。

「Linuxをインストールする(Linuxサービスセット用)」を選択し、[次へ]をクリックしてください。

7. [RAIDの設定]画面が表示されます。

設定内容を確認し、修正が必要な場合は「次の設定で論理ドライブを作成する」を選択し、パラメータを設定してから、［次へ］をクリックしてください。

RAIDコントローラを使用していない場合や、既存の論理ドライブをそのまま使用する場合は、「論理ドライブの作成をスキップする」を選択し、［次へ］をクリックしてください。

8. [ディストリビューションの指定]画面が表示されます。

インストールするディストリビューションをリストから選択してください。
「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」を選択すると、インストール番号の入力フォームが表示されますので、「Red Hat Enterprise Linux 5」のインストール番号を入力してください。インストール番号の入力を省略した場合、サブスクリプションに含まれている全パッケージグループにアクセスできない場合があります。

「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」のインストール番号の詳細については、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントの「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

次に、シームレスセットアップ・インストールキーを入力してください。シームレスセットアップ・インストールキーは、Linuxサービスセットに同梱されている「はじめにお読みください」に記載されています。シームレスセットアップ・インストールキーの入力後、［次へ］をクリックしてください。

Linuxサービスセットについて

「Linuxサービスセット」は、Linux(ディストリビューション)とサポートサービスなどを組み合わせ、エンタープライズシステムでLinuxをより安心してお使いいただけるようにする製品です。システムの運用性・信頼性向上とシステム管理者の負荷軽減の実現のために、下記の各種機能やサービスを提供しています。

- 設定時や障害時の問題解決を支援するサポートサービス
- 導入時の作業時間を大幅に削減するBTOインストール出荷
- 出荷対象の全てのOS・サーバモデルで実機での動作評価を実施し、安心して運用していただける環境を提供
- 製品出荷後に公開された新しいカーネルについても評価情報・アップデート手順を提供
- 障害の発生や予兆を早期に発見可能なサーバ稼動監視ツールを提供

「Linuxサービスセット」の詳細については、以下のWebサイトをご覧ください。

http://www.nec.co.jp/linux/linux-os/

9. [インストール方法の選択]画面が表示されます。

   「ハードディスクからのインストール」または「CD/DVDからのインストール」を選択し、[次へ]をクリックしてください。

10. [パーティション・パッケージの設定]画面が表示されます。

   パーティションの設定は、「BTO(工場組み込み出荷)時パターン1～3」、「手動で設定する」から選択してください。swapパーティションのサイズを変更する場合は、「搭載メモリから算出する」、「BTO時の設定にする」、「サイズを指定する」から選択してください。設定完了後、[次へ]をクリックしてください。
   パッケージの選択はBTO(工場組み込み出荷)時の構成と同様になります。

パッケージの選択画面で「こちら」をクリックすると、BTO(工場組み込み出荷)時のパッケージ一覧が表示されます。BTO(工場組み込み出荷)時のパーティション設定およびパッケージグループの詳細については、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントの「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

11. [その他のインストール設定]画面が表示されます。

rootパスワードを入力してください。rootパスワードは、6文字以上127文字以下で設定します。rootパスワードを入力後、[次へ]をクリックしてください。

12. [追加アプリケーションの指定]画面が表示されます。

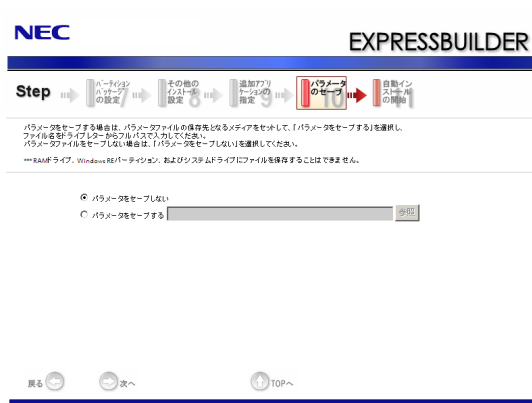
必要なアプリケーションを選択し、[次へ]をクリックしてください。

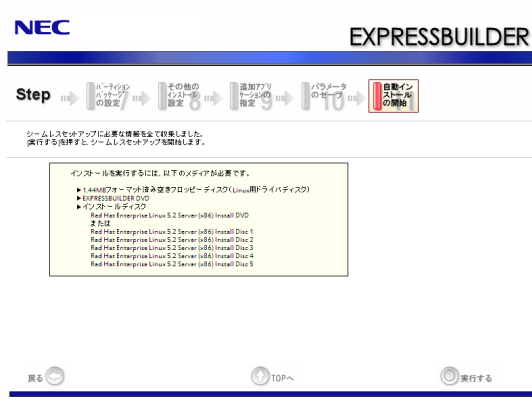
Universal RAID Utilityは必ず選択してください（RAIDシステム構成の場合のみインストールされます）。

マウスポインタをアプリケーション名に移動させると、アプリケーションの説明が表示されます。

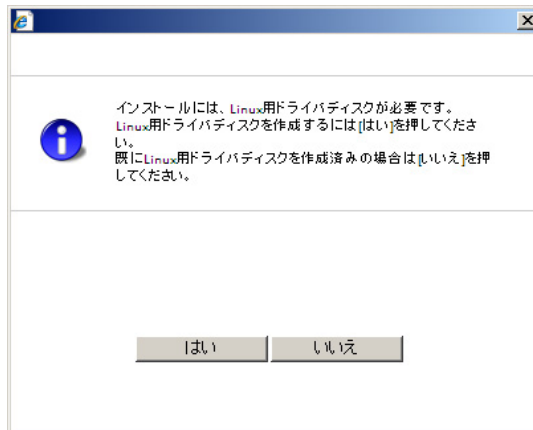
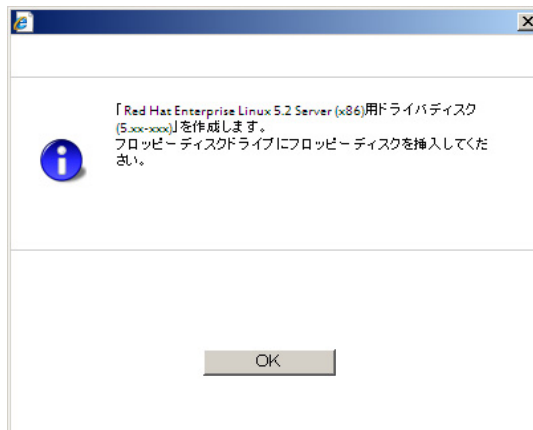
13. [パラメータのセーブ]画面が表示されます。

パラメータをセーブする場合は「パラメータをセーブする」を選択し、1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクをセットした後、ファイル名をボックスへ入力し、[次へ]をクリックしてください。

パラメータをセーブしない場合は「パラメータをセーブしない」を選択し、[次へ]をクリックしてください。

14. [自動インストールの開始]画面が表示されます。

インストールに必要なインストールディスクを準備し、[実行する]をクリックしてください。

インストールするOSもしくはインストール方法によって、表示される画面の内容は異なります。

15. 手順7でRAIDを設定した場合は、[RAIDの構築]画面が表示されます。RAIDの構築が完了後、[Linux OSインストールの準備]画面に移り、Linux用ドライバディスクの作成を促すメッセージが表示されます。

    Linux用ドライバディスクを作成する場合は、[はい]をクリックしてください。
    Linux用ドライバディスクを作成済みの場合は、[いいえ]をクリックして、手順16に進んでください。

    フロッピーディスクを要求するメッセージが表示されます。空のフロッピーディスクをセットして、[OK]をクリックしてください。
    Linux用ドライバディスクが作成されます。

画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

16. Linuxのインストール準備を進めます。

[「ハードディスクからのインストール」を選択した場合]

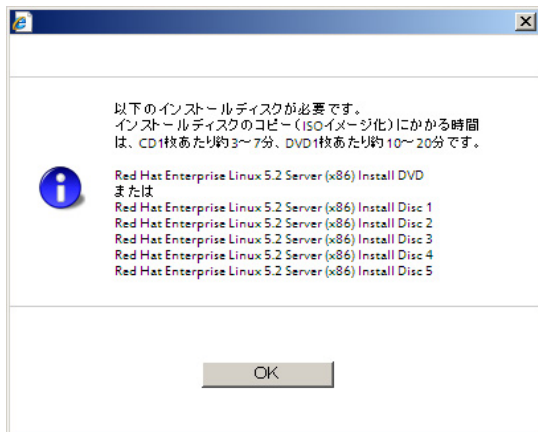
ハードディスク上の既存のLinux Recoveryパーティションからインストールする場合は、手順18に進みます。
ハードディスク上に、インストールするディストリビューションに対応したLinux Recoveryパーティションが存在しない場合は、Linux Recoveryパーティションを新規に作成するために手順17に進みます。

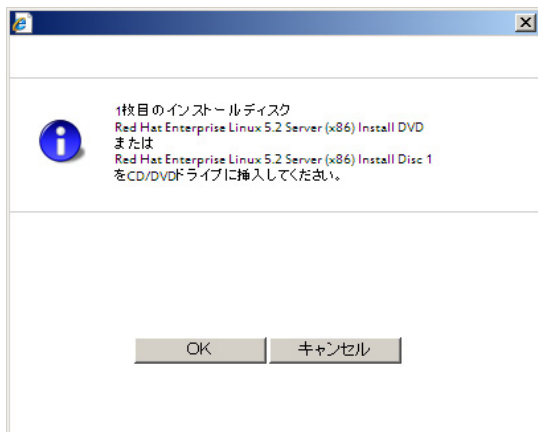
[「CD/DVDからのインストール」を選択した場合]

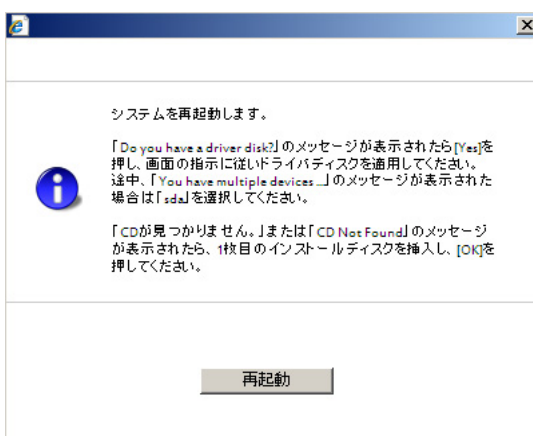
手順17に進みます。

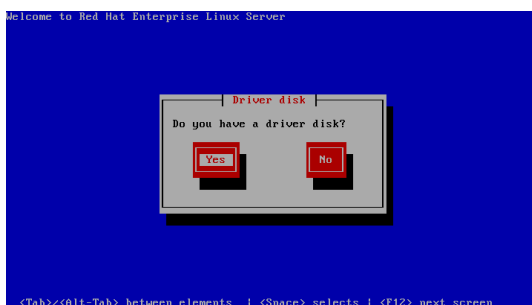
17. Linuxのインストールディスク1枚目を要求するメッセージが表示されます。

[「ハードディスクからのインストール」を選択した場合]

インストールするディストリビューションの1枚目のインストールディスクをセットし、[OK]をクリックしてください。
メッセージに従って、2枚目以降のインストールディスクを入れ替えてください。
Linux Recoveryパーティションが作成されます。

[「CD/DVDからのインストール」を選択した場合]

インストールするディストリビューションの1枚目のインストールディスクをセットし、[OK]をクリックしてください。
インストールディスク1枚目からファイルのコピーが行われます。

18. ドライブからディストリビューションのインストールディスク、「EXPRESSBUILDER」DVD、フロッピーディスクをすべて取り出し、[OK]をクリックしてください。

再起動を促すメッセージが表示されますので、[再起動]をクリックしてください。

19. 再起動後、ドライバディスクの有無を確認するメッセージ(“Do you have a driver disk?”)が表示されます。

[Yes]を押してください。

20. フロッピーディスクドライブを指定するメッセージ（“You have multiple devices..”）が表示されます。

    “sda”を選択し、[OK]を押してください。

21. ドライバディスクを要求するメッセージ（“Insert your driver into..”）が表示されます。

    Linux用ドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]を押してください。

22. 他のドライバディスクの有無を確認するメッセージ（“Do you wish to load..”）が表示されます。

    [No]を押してください。

23. Linuxのインストールが開始されます。

    [「ハードディスクからのインストール」を選択した場合]

    そのままインストールが進行します。

    [「CD/DVDからのインストール」を選択した場合]

    メッセージ（“CDが見つかりません。”または“CD Not Found”）が表示されますので、インストールするディストリビューションの1枚目のインストールディスクをセットし、[OK]を押してください。

手順10のパーティションの設定で「手動で設定する」を選択した場合は、インストールの途中、パーティション設定画面が表示されますので、必要に応じ設定してください。なお、「ハードディスクからのインストール」を選択してパーティションを手動で設定する場合、パーティション設定画面にLinux Recoveryパーティション（約5GB）（タイプvfat）が見えていますが、削除しないでください。手動パーティション設定については、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントの「Red Hat Enterprise Linux 5 Serverインストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

24. Linuxのインストールを進めてください。

    [「ハードディスクからのインストール」を選択した場合]

    そのままインストールが進行します。

    [「CD/DVDからのインストール」を選択した場合]

    メッセージに従って、2枚目以降のインストールディスクを入れ替えてください。
    インストールの終了後、「EXPRESSBUILDER」DVDを要求するメッセージ（“Please insert EXPRESSBUILDER Ver. 5.xx-xxx.xx disc”、“Press ENTER to continue.”）が表示されますので、「EXPRESSBUILDER」DVDをセットし、[ENTER]を押してください。

25. アプリケーションがインストールされます。

    アプリケーションのインストール終了後、ディストリビューションの完了画面が表示されますので、「EXPRESSBUILDER」DVD（セットしている場合のみ）を取り出し、[再起動]を押してください。

26. 再起動後、Linuxサービスセットに添付される「初期設定および関連情報について」を参照し、必要に応じて設定を行ってください。

以上で、シームレスセットアップは完了です。

マニュアルセットアップ

Linuxサービスセットを購入された場合は、Linuxが未インストールの状態から「シームレスセットアップ」を使用することができます。パッケージの変更などを行うためにBTO（工場組み込み出荷）時と異なる設定で再セットアップを行う場合は、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントの「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を行ってください。